

たしろかおる参議院議員 「東日本震災復興及び 原子力問題特別委員会」で質問に立つ!

たしろかおる参議院議員は、4月6日「東日本大震災復興及び原子力問題特別委員会」で質問に立ちました。

質問内容は①福島第一原子力発電所の収束と廃炉に向けた工事の作業状況について②常磐線の復旧のあり方について③気仙沼線・大船渡線の復旧について④震災被災者の救済についての4点にわたって質問し、政府答弁を求めました。

①原発事故の収束・廃炉作業にあたっている作業員への「休業補償」について

東京電力は福島第一、福島第二、柏崎刈羽原発で作業員の事故が続いたことを受けて、「安全点検」として全作業を一時的に中断した。その際、作業員に休業手当が支払われていない事象がある。労基法で定めてある休業補償分の原資は発注元である東京電力が下請け業者に支払うべきであり、請負契約にも盛り込むことなどを検討し労働者が安心して働ける環境を整えるべき。



②常磐線の復旧に関わる方々の健康管理について

常磐線・竜田～原ノ町間の空間放射線量が高い区間は、常時線量をチェックし続ける対策が必要ではないか。早期復旧を急ぐあまり、関係者の健康管理が適切に行われず、後に健康被害が出るのが一番心配だ。JR東日本が今後除染と復旧工事にあたるが、関係者の健康管理は一企業の問題とせず、全省庁を上げて取り組むべき課題である。

③気仙沼線・大船渡線の復旧は、国ももっとが主体性を持つべき

復興とまちづくりを合わせた概算費用は、気仙沼線は700億円、大船渡線は400億円かかると言われている。国は、鉄道の復旧は「黒字会社は自前で」というが、JR東日本を支援しつつ、国として主体性をさらに発揮して、まちづくりと復興を組み合わせた枠組みをつくる必要があるではないか。また、国・JR・自治体で行っている「復興調整会議」も首長レベルに格上げするなどして、地域の声をもっと復興に活かすべき。

④被災者の孤独死、こころのケア

東日本大震災以降、仮設住宅などで亡くなる一人暮らしの方が多く発生している。厚労省として「孤独死」の定義を明確化して実態をしっかりと把握するとともに、被災者の相談や心のケアを行う人材の育成・確保についてなど手厚い対策が必要だ。

たしろかおる議員の国政での活躍を職場から応援しよう!

詳細は「[参議院インターネット審議中継](#)」でご覧になれます!